

平成 24 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること）

外来における HIV 患者のセルフケアを推進する看護師の実践能力に関する研究

学位の種類： 修士（看護学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号：10894602

氏 名：伊藤紅

（指導教員名： 河原 加代子 ）

目的：本邦は、HIV 新規患者数が増加傾向にある数少ない先進国の一つであるため、その感染拡大の防止は保健問題の重要な課題の一つである。しかし、これまでの HIV 看護の実態に関する研究では、直接看護師を調査対象とした報告はない。本研究の目的は、HIV を担当する外来看護師の HIV 看護実践の現状を調査し、HIV 患者のセルフケアの取り組みを促す看護師の実践能力とその関連要因を明らかにすることにある。

方法：HIV/エイズ診療拠点病院 380 箇所の HIV 感染症を担当する外来看護師を対象に、自記式質問紙を用いた調査を実施した。質問項目は、病院の概要（11 項目）、看護師の属性（7 項目）、HIV 看護の認識（6 項目）、HIV 感染症とその治療の知識（10 項目）、および HIV 患者への看護実践能力（40 項目）とした。分析は、病院概要と看護師の属性は単純集計を行い、次に看護実践能力と関連要因との関連を Mann-Whitney 検定で解析した。

結果：50.3%(99/195)の看護師から回答を得た。看護師の属性は、配置体制を専従・専任としている病院が約半数であった。看護師の経験年数の平均は、19.2 年（SD=8.30）であった。HIV 研修は、80%以上の看護師が受けていた。HIV 感染症とその治療の知識については、10 点満点で平均 8.21 点（SD=1.73）であった。関連要因「研修」「配置体制」「知識」は、ほとんどの看護実践能力の項目と関連を認めた。「病院の設置」「看護師の配置希望」は、一部の項目で関連を認めた。「経験年数」「病院の患者数」「配置前の特別な印象の有無」では、ほとんどの項目で関連を認めなかった。

考察：HIV 累積患者数は、この 10 年で約 3 倍に急増しているが、HIV 感染症を担当する看護師は増加しておらず、現場の負担が増大していると考えられる。服薬支援では、服薬開始前の支援が重要である。服薬開始前に、患者が治療を理解した上で内服を患者自身が意思決定する過程を経ることで、内服アドヒアランスの維持が見込まれる。二次感染予防では、外来という時間の限られた中で、看護師が有する知識を患者自身が感染予防の行動をとれるような教育的な姿勢が重要である。HIV 研修に参加した看護師が、より高い看護実践能力を有していることが明らかとなった。そのため、HIV 感染症を担当する看護師が、研修に参加できる体制づくりと、より実践に即した研修が必要であると考ええる。

結論：HIV 看護実践能力の向上には、専任での HIV 看護師の配置、HIV 研修の受講、および HIV 感染症の知識の獲得が必要であることが明らかになった。今後、HIV 感染症に関する研修の拡充や教育システムの整備が重要である。